

困りごと調べ・Q-U(楽しい学校生活をおくるためのアンケート)についての実践

I 実践の概要

1 取組の趣旨

本校では生活面での児童の実態把握の方法として、これまで年に2回の『困りごと調べ』を全児童を対象として実施し、生徒指導に活用してきた。

しかし、昨今いじめ問題が複雑化し、それらの問題が、学級の間人間関係に大きく起因するものであることから、18年度は新たに、4～6年生を対象に『Q-U』(楽しい学校生活をおくるためのアンケート)も併せて実施した。これは、子どもたちの心情や学級の実態をよりきめ細かく客観的に把握し、その後の支援・指導に生かすことを意図したものである。

2 実践の方法・内容

(1) 困りごと調べ(6月・11月実施)

・ 学校生活を中心として、児童自身が悩んでいる事について記述式で調査する。挙がってきた事例については、生徒指導についての打ち合わせを持ち、全職員で共通理解を図りながら指導に生かしてきた。全職員で全児童を指導し、校内の指導体制を整備してきた。

また、保護者との個別懇談・学級懇談等において、家庭への情報提供や教育相談にも結果の活用を図り、学校と家庭で共通理解を図りながら児童を育てることを重視してきた。

(2) Q-U(楽しい学校生活をおくるためのアンケート)

・ 学級での人間関係が、より複雑になる上学年児童(4～6年生)を対象に、学級生活における満足度を見る『いざこちのよいクラスにするためのアンケート』、学校生活における意欲を見る『やる気のあるクラスをつくるためのアンケート』の2種について実施した。

この調査から、①一人一人の子ども的心情と実態、②学級集団のタイプ、③個人と学級集団の関係、について知ることができた。

II 実践の成果

1 客観的な児童把握の資料としての Q-U 調査結果の活用

私たち教師は日常的に児童の様子を見取り、そのよさや問題点について十分に把握していると思いついておられる面がある。しかしながら、教師の児童観察には主観的な要素も含まれてしまうことは否めない。実際に、今回実施した Q-U の調査結果と担任が把握していた児童の実態との間には、若干のずれがあった。しかし、この結果を自分たちの観察の内容と併用して活用することによって、従来とは違った角度から児童を見つめ直し、さらに個々の児童の理解を深めることができた。

また、日頃から支援・配慮を必要とする児童がいた場合、これまでは漠然とした原因でしかとらえられなかったものが、この調査の結果により、問題行動の背景にどんな原因や課題があるのかが明らかになった。さらに、それに対応する具体的な方法が示唆されるので、個々の児童の課題に応じた指導・支援を計画的に行うことが可能となった。

2 教師間の共通理解を図るための具体的資料としての活用

学校全体で生徒指導に取り組む体制作りを目指して取り組んできたが、実際に問題行動等について、その対応を協議する場合に、これまでは個々の場面での児童の行動について話し合うことが中心であり、児童の内面にまで迫った話し合いについては、十分にできない面があった。

しかし、今回の調査結果を活用することにより、これまでより児童の側に立った、実態に迫った話し合いをすることができた。

さらに、担任・養護教諭・担任外の各立場からの情報交換及び意見交換も、この資料を活用することによって、内容がより具体的になり、指導・支援に十分に生かすことのできる内容となった。

また、この資料を話題として、自主的に話し合いをする教員の姿も見られ、生徒指導に対する教員の意識の活性化を図ることができた。

Ⅲ 実践資料

1 やる気のあるクラスをつくるためのアンケート用紙

※今の学校生活を振り返って、質問に対して自分の気持ちに近い数字に○をつけて下さい。

4:とてもそう思う 3:少しそう思う 2:あまりそう思わない 1:まったくそう思わない

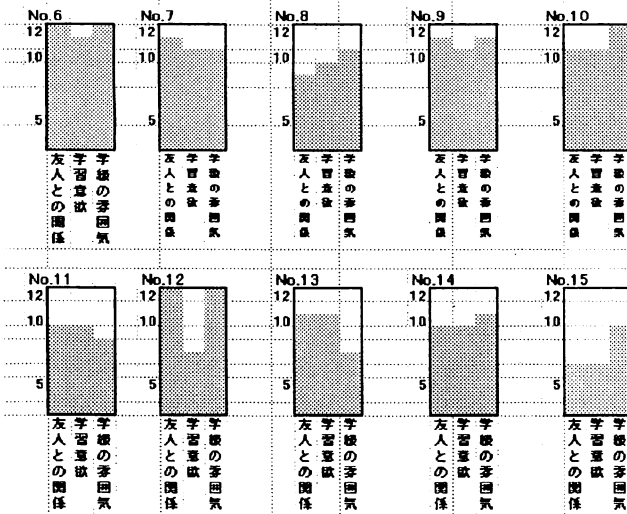
- あなたのクラスの人たちは、あなたに声をかけてくれたり、親切にしてくれたりしますか？ 4-3-2-1
- あなたのクラスには、いい人だなと思う友だちや、すごいと思う友だちがいますか？ ※以下全て4段階で回答
- あなたは、クラスの人から好かれている、仲間だと思われていると思いますか？
- 学校で勉強していて、できなかったことができるようになると、うれしいと思いますか？
- じゅ業中に、先生のしつ間に答えたり、自分の考えや意見を言うのは好きですか？
- よい成績をとったり、もっと勉強ができるようになると努力していますか？
- あなたのクラスは、明るく楽しい感じがしますか？
- あなたのクラスは、みんなでなかよく協力しあっていると思いますか？

2 いごちのよいクラスにするためのアンケート用紙

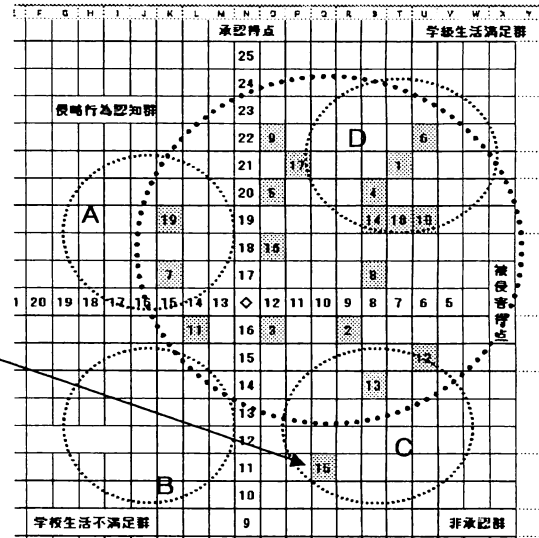
- あなたは運動や勉強、係活動や委員会活動、しゅみなどでクラスの人からみとめられる(すごいと思われる)ことがありますか。
- あなたが失敗したときに、クラスの人がはげましてくれることがありますか。
- クラスの中に、あなたの気持ちをわかってくれる人がいると思いますか。
- あなたが何かしようとするとき、クラスの人たちは協力してくれたり、おうえんしてくれたりするとおもいますか。
- あなたのクラスには、いろいろな活動に取り組もうとする人が、たくさんいると思いますか。
- あなたが自分の思ったことや考えたことを発表したとき、クラスの人たちはひやかしたりしないでしっかり聞いてくれると思いますか。
- あなたはクラスの人にいやなことを言われたり、からかわれたりして、つらい思いをすることがありますか。
- あなたはクラスの人にぼう力をふるわれるなどして、クラスにいたくないと思うことがありますか。
- あなたはクラスの人にばかにされるなどして、クラスにいたくないと思うことがありますか。
- あなたは休み時間などに、ひとりぼちでいることがありますか。
- あなたはクラスでグループをつくるときなどに、すぐにグループに入れないで、最後の方まで残ってしまうことがありますか。
- あなたはクラスの人たちから、無視されているようなことがありますか？

3 集計結果

(1) 個人別プロフィール (*ある学級の例)



(2) 分布表



A 侵害行為認知群にいる児童

→自己中心的な面があり、他の子どもたちとトラブルを起こしている可能性が高い。対人関係の調整を中心とした個別の配慮が必要である。

B 学校生活不満足群にいる児童

→いじめや悪ふざけを受けていたり、不適応になっている可能性の高い子どもたち。この群に所属する児童には、個別の特別な対応を必要とする。

C 非承認群にいる児童

→学級内で認められることの少なく自主的に活動することも少ない、意欲の低い子どもたち。意欲の喚起を中心とした個別の配慮・支援が必要である。

D 学校生活満足群にいる児童

→不適応感やトラブルが少なく学級生活・活動に満足し、意欲的に取り組んでいる子どもたち。

○児童の分布から見る、この学級の状態

やや右上に集まった分布を示して、概ね子どもたちが主体的に生き生きと活動できている状態であると推測される。しかし、No. 15の児童が一人だけ非承認群におり、支援が必要である。また、No. 7. 19の児童についても経過観察が必要である。個人別プロフィールと学級での分布結果の両面から分析・考察し、修正すべきポイントを明確にして指導していく。